

キリスト教学院大学の教授が楽しく分かりやすく理科授業



西原町教育委員会がキリスト教学院大学と連携して実施している「町立小学校理科教科モデル事業」が、町立の4小学校で行われました。子どもの理科離れが課題となっている中、小学生の理科的素養を高め、科学的知見や考え方を身に付けることを目的に実施されています。

3月4日、5日は坂田小学校の6年生を対象に、同大学の内間清晴教授が電気をテーマにした授業を実施し、講義や実験を交えて電気の仕組みなどを説明しました。発電の項目では、火力や原子力発電の問題点や、環境に配慮した風力、温度差発電を解説。児童は地球温暖化などの環境問題を考え、不思議な電気の実験を見て歓声を上げました。

内間教授は「理科は難しいものではなく、楽しいものということを教えたい。一人でも多くの児童が、実験をすることや理科教科に興味を持って、将来理科の専門家や研究者が誕生してほしい」と、授業を振り返りました。

中学生・高校生が現代版組踊を熱演

琉球王朝を築いた尚巴志を描いた現代版組踊「冤鷲〜琉球尚巴志伝」(同公演実行委員会主催)が、3月7日にさわふじ未来ホールで上演されました。

この舞台は、西原東小学校で校長を務めたこともある大盛永意さんの著書「第一尚氏物語」を原作に平田大一人さんが演出した組踊を、県内の中学・高校生が演じたものです。

今回の公演には、西原町在住の6名を含む県内の中学・高校生49名が出演。昨年の12月から稽古を重ね、この日行われた2回の公演で、芝居や踊りなどを熱演しました。公演後はたくさんの拍手が送られ、出演者は笑顔で応えたり感動で涙を浮かべる人もいました。



まちの話題

保育園児が黒糖づくりを体験

昔ながらの製法を用いた黒糖づくりが、2月26日に西原保育園(田中雄二園長)で行われました。この取り組みは地元との与那城自治会などが協力して行われたもので、園児はさとうきび絞りに挑戦し、しぼり汁を煮詰めるようすを見学しました。

また、この日は与那城自治会のいいあんべー事業に参加しているお年寄りが、事業の一環として園を訪れました。約25名のお年寄りは、黒糖づくりの手伝いや昼食を一緒にいただき、園児との交流を楽しみました。



子どもたちの非行化を防ごう

「非行のある子どもに見えているもの-育てるといこと・育つということ-」と題した講演会(西原町・西原町要保護児童対策地域協議会主催)が、2月13日にさわふじ未来ホールで開催されました。

講演会では全国各地の教育委員会や学校、福祉機関などで支援や研修を行っている小栗正幸さん(特別支援教育ネット代表)が講師を務めました。小栗さんは少年院などに勤務し、数多くの非行少年と接してきた経歴を持ち、非行に走る少年少女の背景、支援や指導の切り口、保護者への対応などについて語りました。非行化した子どもたちは「親や大人に分かってほしい」という思いを持ちながら、うまくいかずに天邪鬼になっている」と説明。その上で、そのような少年少女との付き合い方は「肯定的なやり取りの中で子どもを育てることが、肯定的な育ちにつながる。親がイニシアチブを取りながら、押し



してだめなら引いて、引いてだめなら押して、子どもにアプローチしてほしい」とアドバイスしました。

コミュニティ助成事業を活用し防災力強化～西原台団地～

宝くじの社会貢献広報事業「平成26年度コミュニティ助成事業(地域防災組織育成事業)」の助成を受けて、西原台団地自治会(波平常則会長)の自主防災会が災害対策用備品の整備を行いました。

西原台団地自治会自主防災会は、西原町で初めて結成された自主防災組織です。定期的な防災会議や訓練のほか、自主的に「防災たより」を発行し、地域住民の防災意識の啓発を日ごろから実践しています。

今回の備品整備を受け、自主防災組織による共助や自助を強化することで災害に強い地域づくりが期待されます。波平会長は「備品を有効活用し、さらなる地域の防災力強化に努めていきたい」と抱負を語りました。



西原台団地自治会自主防災会のみなさん

内間御殿で調査説明会

国の文化財として指定されている史跡、内間御殿(字嘉手苅)の発掘調査に関する説明会が、3月8日に現地で実施されました。

内間御殿では歴史的・文化的・学術的価値を調べるため、平成25年度から発掘調査が行われています。今回は地元の嘉手苅自治会を対象に、調査で分かったことや見つかった遺物などを説明し、調査への理解や内間御殿の価値を知ることを目的に行われたものです。



説明会では史跡に関してのみならず、周辺に生えているサワフジやフクギなどの名木などにもふれました。参加した住民は、職員の説明に興味深く聞き入っていました。

役場で津波を想定した訓練



訓練で屋上に避難する職員

西原町役場庁舎の避難経路確認などを目的に、津波を想定した避難訓練を2月20日に実施しました。

今回の訓練は役場職員を対象にしたもので、約50人が参加しました。職員は経路に沿って建物の屋上へ移動。非常時の避難ルートや屋上の状況を確認しました。

また、庁舎内の消火器設置場所や使用方法を確認し、火災時に備えました。

公共施設にひな人形を寄付

太田小児科医院(字小橋川)が、西原町役場の施設に設置してほしいと、ひな人形を西原町に寄付しました。

この取り組みは同医院の太田千鶴さんが、故郷の徳島県勝浦町との縁で実施しているものです。勝浦町では全国から使わなくなったひな人形を受け入れ、里親探しを行っています。太田さんはその取り組みと連携し、約5年前から年次的に、西原町内の病院や保育園などにひな人形を寄付しています。町内の公共施設にも、これまで西原町立図書館や町立幼稚園などに寄付を行ってきました。

3月12日には数々の寄付に対して、西原町から感謝状が贈られました。太田さんは「子どもたちの集まる場所にひな人形を置いて、情操教育に少しでも役立てられたらいい」と、喜びを語りました。



感謝状を受けた太田千鶴さん(左から2番目)